



既存技術を融合し下水管補修材製造に進出

基幹事業は漁網、FRP 引抜成形、カーマツ製造業。1995 年頃から認識していたものの参入に至っていなかった光硬化技術による下水管補修事業へ工事施工会社から協力依頼の声がかかる。当社が保有していた「FRP(繊維強化プラスチック)引抜成形技術」と「光硬化 FRP 技術」の活用で対応可能であったため下水管補修材製造に参入。

業況等の動向について

異業種に参入した動機や経緯、きっかけ

15 年程前にあたる 1995 年頃から光硬化技術での下水管補修工事が欧州(主にドイツ、フランス、スイス)で既に実施され、補修工事の主流(シェア約 60%)になりつつあることは認識していた。しかし当時の社内における発想力、技術力では『どのように行うのか』、『今の保有技術で対応できることがあるのか』等が不明であったため事業参入には至っていなかった。

その後、工事施工企業(東亜グラウト工業/本社:東京都新宿区、建設業)より突然の問合せが入る。東亜グラウト工業は欧州より光硬化技術での下水管補修工事技術を取得し光硬化方法が使用できる下水管補修材を製造できる企業を探していた。社内検討の結果、既存の技術であるガラス繊維の編網技術(環境関連事業にて展開中)、FRP 引抜成形技術等を組み合わせれば下水管補修材が製造可能であることが判明。工場建設などの投資を行い本格的に下水管補修材製造事業へ参入していった。

参入して最も成果のあったこと及び最も困難だったこと

東亜グラウト工業からの問合せで参入きっかけを得たことに加え、既存技術の組み合わせによって対応が可能であったため特別な困難はなかった。

今後の展望・見通し

公共事業の増減に依存することはあるが下水管の老朽化は日々進行している上、現段階でも補修をしなければならない下水管は膨大に埋まっている。光硬化技術での下水管補修は地面を掘り起こすこともなく、また短時間で工事を施工できる特徴があるなど環境面にも優れているため光硬化技術による補修工事及び補修材需要は増加の一途を辿ると考えている。設備面では最大 15 億円/年まで対応可能な製造ライン(7~8 億円/ライン・年対応可能)が導入できる専用工場も完成している。現在は 1 ラインのみの設置であるが、下水管補修材製造での売上高が 5 億円/年を超える規模となった際にもう 1 ラインを増設する予定をしている。

メリット・デメリット

メリットは新規参入事業である下水管補修材製造に活用した技術をさらに発展させた新しい製品を作り出せる可能

性が広がったことである。一方、公共事業の増減など外部要因による売上げ変動が大きいことはデメリットである。

異業種参入時のアドバイス

リスクを最小限にする努力は怠らないこと。また、計画と現実との違いをきちんと理解しておくこと。2~3 億円程度の投資は全く回収できないこともある、ということを当初から覚悟しておく必要はある。

行政の支援について

異業種参入に際し、役に立った行政、支援機関の制度

下水管補修材製造事業参入にあたっては工場建設などの多額の投資を行ったが支援制度は活用しなかった。

異業種参入に際し、行政に対して望む支援

必要な時に必要な支援を活用しているので支援策に対する要望は思い当たらない。

会社概要

設立:1950年(昭和25年)11月27日

資本金:9,500万円

従業員数:70名

URL:<http://www.fukui-fibertech.co.jp>